

図書委員長雑感

図書委員長 秋月 汐里

みなさんは読書にどんなイメージを持っていますか？難しいイメージですか？それとも楽しいイメージですか？

近年高校生の読書時間が減少していると聞いたことがあります。その理由は、スマートフォンやタブレットの普及、勉強や部活動などで忙しい、など様々です。ですが、ちょっとした息抜きにでも読書を取り入れてほしいです。読書の良い所はたくさんあります。たとえば、本を読んでいるうちに語彙力や読解力が身に付いたり、心を動かされることで感情や想像力が豊かになっていったりします。自然と言葉も覚えていくため、社会的能力も身につけられると思います。

図書室には、いろいろな本があります。今話題となっている本、趣味に役立つ本、全国の大学の学部や学科が載っている本、入試対策ができる本。そして、おすすめの本コーナーや新刊コーナーも設置しています。自分の好きな本や好きなジャンルに出会えるかもしれません。本の大切さやすばらしさをわかっていただけたら、図書室にぜひいらしてくださいね！



南高図書館報

読書の効果

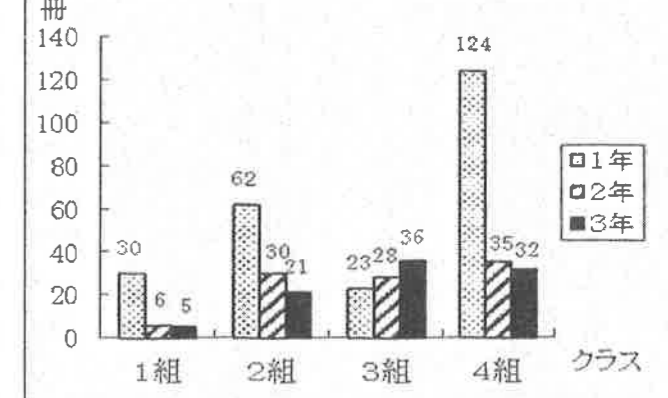
教頭 武智 誠治

現在、出版物の売り上げは、平成八年をピークに落ち続け、昨年はピーク時の約六割となっています。最近特に、雑誌が大幅に減少しており、危機的な状況となっています。しかし、それに代わるものとして、電子書籍が登場しており、今後は、出版物の主流が紙媒体のものから、パソコンやタブレットで見ることのできる電子出版物へと変わっていく可能性が高くなってきました。学校の教科書についても、電子教科書に移行することが考えられ、ますます時代の流れを感じるようになります。

しかし、私などのように紙の本に慣れている者にとっては、タブレットの中を覗き込むよりは、一枚一枚ページをめくりながら葉しおりを挟んで、どこまで読んだのかを確認しながら本を読み進めていく方が性に合っているように感じます。また、大切だと思う部分に付箋をつけて、再度読み直すことも読書の良いところだと考えています。

私自身、今までも、いろいろな本を読んできましたが、ジャンルとしては歴史小説を一番好んで読んでいます。その中でも、司馬遼太郎さんの作品を多く読み、愛媛県出身の正岡子規と秋山兄弟が主人公となっている『坂の上の雲』は何回も読み直しています。この

貸出冊数統計表(4月～1月)



貸出冊数ベスト10 (4月～1月)

Table with 4 columns: Rank, Class, Name, and Number of books. Lists the top 10 most borrowed books and their authors across different classes.

南高生がよく読んだ本ベスト10 (4月～1月)

Table with 3 columns: Rank, Book Title, Author, and Publisher. Lists the top 10 books most read by students.

編集後記

南高の図書館に来たことはありますか？本は、時にあなたの悩みに一筋の光を投げかけるものであり、人生の一端を教えてくれるものであり、世界の深淵を覗かせるものであり、あなたの喜びにつながり、生活を豊かにしてくれるものだとは私は信じています。図書館には、あなたの知らない世界を見せてくれる本が、たくさんあります。昼休みに、ぜひ立ち寄ってください。お待ちしています。最後にありがとうございました。教頭先生をはじめ、寄稿いただきました先生方、本当にありがとうございます。(内田記)

作品で、正岡子規の凄みのある生き方を知ることができ、なぜ歴史に名を残しているのかを理解することができました。また、秋山好古の豪胆さ、秋山真之の緻密さだけでなく、明治という時代のすばらしさを感じることができました。この本は日露戦争のことが描かれています。この本は日露戦争のことが描かれています。富国強兵が行われた明治とあって三十年ほどしか経過していない日本が、ヨーロッパの強国ロシアを相手に戦争を起すという事は、当時も無謀だと考えられていたに違いありません。それを綿密な計画と作戦でロシアを撃破していった明治の日本人は、本当に偉大であったと思います。この本を読むことで、日本人としての自信を得ることができただけでなく、一つのことを成し遂げるためには計画と実行力が重要であるということも教えてもらえたように感じました。

これ以外にも、司馬遼太郎さんの作品の多くは、躍動感に溢れ、これからの時代をつくっていった人たちの活躍が痛快に描かれています。読む者全てを引き付ける魅力に富んでいます。ぜひ皆さんにも読んでもらいたい作家の一人です。

さて、もう一冊、私が先日読んだ本の中に『風の中のマリア』という本があります。この本は、『永遠の0』や『海賊とよばれた男』で有名な百田尚樹さんの著書です。百田尚樹さんは、過激な発言でマスコミ等でも度々話題になっている人ですが、『風の中のマリア』はオオズメバチのことを本当によく研究されており、オオズメバチを擬人化することによって、その生態を分かりやすく、またハ

チの目線から伝えることのできているすばらしい一冊です。今までハチという「刺される」というイメージしかなく、常に敬遠する対象でした。しかし、この本を読むことで、オオズメバチのことをネットやテレビ等でもより詳しく調べるようになり、ハチの中でも最も獐猛といわれるオオズメバチのことが気になるようになりました。スズメバチは、獲物が少なくなる秋になると同じハチでもミツバチやアシナガバチなどの巣を襲い、その中の幼虫等を根こそぎ餌としてしまうことがあります。実は、私の家にもアシナガバチの巣がありました。その巣にスズメバチが何匹か来るようになったかと思っていたら、ふと気がつくといつの間にか無人の巣となっていたことがありました。それまで忙しそうに働いていたアシナガバチが一匹もいなくなったという現実を見て、自然の厳しさを痛感するとともに、本で読んだとおりだという満足感を得ることができました。ただ、スズメバチも次の女王蜂を育て上げ、冬の到来とともに死滅する運命にあります。自分の命を削って次の世代を育て上げるという営みは、本能だとは思いますが、ハチだけではなく人間にも当てはまる場所もあり、本が『風の中のマリア』を読んだ後にオオズメバチのことを調べるようになったように、歴史小説を読んで、その歴史上の人物や時代背景を研究するようになったという人は非常に多いのではないのでしょうか。このように、本には人の知識や考えを発展させるすばらしい力があります。その上、心を豊かにす

る効果も持つているため、高校生のように多感な時期にしっかりと読書をすることは重要だと考えています。

また、科学的に見ても、読書は脳にも大きな影響を与えることが分かっています。読書によって、かなりの脳の器官を動かし、「大脳の活性化」「アルツハイマー病の予防」「ストレスの軽減」「コミュニケーション力の向上」「多角的な思考の定着」「情報処理能力のアップ」等の効果があると考えられています。

本校の図書館では、非常に多くの本が皆さんを待っています。毎年、話題になった書籍も追加購入され、これからも皆さんの成長を手助けしてきます。ぜひ一度足を運び、本を選ぶことで、知識を増やすだけでなく、それをきっかけとして興味・関心を広げ、ワクワクした生活を送ってみてはどうでしょうか。

平成二十九年
読書感想文 校内選考 優秀作品

命と向き合うということ

一年 草木原 寧子

気づけば窓の外は薄暗くなっていて、私は卓上電器のスイッチを入れる。『犬が来る病院』と題されたこの本。てっきり病室にぐるぐる犬たちとの温かいストーリーが展開されるとばかり思っていた私であったが、実際が、難病と闘う子どもたちの、儚く、しかし強く生きた命のノンフィクションであった。しばらく時間が経つのも忘れて、私は著者の体験の中に引き込まれていた。

私が生まれつきの持病である小児喘息の発作で救急にかかったのは、奨学三年生の寒い冬のことだった。今までに味わったことのない息苦しさで激しい咳、息が吸えない、うまく呼吸ができない。つらい、早く楽になりたい、ただただ苦しかった。後で聞いた話だが、その時私の血中酸素濃度は正常値を大きく下回り、呼吸困難、低酸素障害で命に関わる危険な状態だったらしい。遠く意識の中で、鼻を真っ赤にし、目に涙をためていた母を思い出す。「出来ることなら代わってやりたい」「丈夫に産んであげられなくてごめん」と母は私の息が止まってしまうのではないかとという恐怖の中、発作で悶え苦しむ私の背中をさすり続けるしかなかったという。この母の姿は、本著の中に登場する子どもたちの母親と重なった。

この本の舞台である、聖路加国際病院の小

れていく必要があると私は思う。

『犬が来る病院』と題されたこの本。難病と闘う子どもたちの物語に終始涙し、そこでの医療スタッフの姿を将来の自分と重ねながら、私はこの本を閉じた。

変化にいち早く気づくお母さんの姿、ほとんど意識がなく反応のない信ちゃんを囲んで、みんなでお祝いした信ちゃんの九歳の誕生日には胸が締め付けられるような気持ちになった。医療スタッフは信ちゃんのケアだけでなく、両親や幼い妹のケアも欠かせなかった。この医療スタッフの取組、全面的なサポートにはとても驚かされる。重い病の告知を受けた時、家族は何を思うのか。きっと「どうしてうちの子が」「代われるものなら……」と悲しみに明け暮れる。しかし出来ることは、その病気を受け止め、その病気とともに生きることなのだ。そのような時支えになるのは、必死に生きようとする子どもたちの姿はもちろん、患者と患者の心に寄り添う医療スタッフの存在なのだろう。十歳にしてこの世を去った信ちゃんだが、信ちゃんの生きた証から、それが強く感じられる。

私はこの夏、愛媛県立医療技術大学のオープンキャンパスに参加した。私自身、幼い頃から病院慣れして医療現場を見てきたせい、将来は医療関係の職業に携わりたいと考えている。「これからの進路決定に何か良い影響が得られたらいいな」そのような気持ちでこの大学を訪れた。しかし、やはりここでも、異なる学科が合同で授業を受けたり、お互いの知識を共有したりしていることを知った。

「トータルケア」の考えが根付いてきているのだと感じた。命と向き合う仕事において、目の前にある命だけでなく、その命を取り巻く環境の全てをケアすることは自然の流れなのかもしれない。「トータルケア」は、命と向き合う現場、全ての病院に積極的に取り入



児病棟。小児がん看護で先進的な「トータルケア」を実践していることで有名だ。そこにいる子どもたち、その親や兄弟、医療スタッフ。それぞれがそれぞれの立場で繰り広げる物語がある。小児病棟だからこその両親やまだ幼い兄弟たちの存在。ここ聖路加国際病院の小児病棟では、入院中の子どもたちが豊かな時間を過ごしていけるように、そしてその子どもたちの家族の不安や悩みを少しでも緩和できるように、「トータルケア」の考えが積極的に取り入れられている。私はこの病院の方針である、「それぞれの領域に重なり合いつつ協働していく形」に感銘を受けた。重なり合うことで抜け落ちる部分がなくなり、より手厚い支援ができる。医療においてはつきりと線引きをせず、患者の治療や入院生活に関わる全ての職種のスタッフが一体となつて、患者である子どもとその子どもを取り巻く家族や兄弟を含めて総合的にケアする「トータルケア」は、この本のテーマのひとつである。

この本の登場人物の一人である、「信ちゃん」と呼ばれる、小学一年生にしてダウン症と白血病という二重のチャレンジを抱える男の子がいた。ハンディキャップを感じさせない天真爛漫な信ちゃん。その信ちゃんをサポートし続けた医療スタッフや家族の姿も印象的だ。聖路加国際病院には「つばさ学級」という院内学級がある。信ちゃんも通っていて、信ちゃん自身が大きく成長できた場所でもある。この場所が深まっていく子どもたち同士の絆、お互いへの理解には院内学級の存在意味を感じずにはいられない。また信ちゃんの

平成二十九年
第四十一回全国高等学校総合文化祭

みやぎ総文2017

文芸 詩部門 出品作品

水溜まり

三年 丸山 優月

ぐるりと回って 避けられる

足下の 小さな丸に

一直線に 飛び込んでみた

無邪気な足は 水に染まる

気にも留めずに 夢を見る

私が世界を揺らしたと

読書をめぐって

今回は七人の先生方に、思い出の一冊や読書に
関する思い等を紹介していただきました。

くいしんぼう読書

国語科 内田侑里

みなさんこんにちは、自他共に認める「くい
しんぼう」、内田です。今回は、筋金入りのく
いしんぼうの私が、「この食べものおいしそう
〜！」とわくわくしながら読んだ本を紹介しま
す。

まず一冊目。忘れもしません、小学校一年生
の夏休みに読んで衝撃を受けた『ライオンと魔
女』。ナルニア国ものがたりとして映画化もさ
れたので、知っている人も多いのではないでし
ょうか。魔女から逃げるため、ビーバーさん
の家に匿われた四人。そこで振る舞われたのが、
とれたての魚のフライ、粉ふきいもなど。「と
りたてのさかなをフライにするにおいがどんな
においしそうだったか、できあがるまで子ども
たちがどんなに待ちどおしく思ったか」「クリ
ームのようにこいミルクのコップ」「こい黄色
のバタの大きなかたまり」「すてきにねとねと
する大きなマーメイド菓子」…。どんな味な
んだろう、おいしいに違いないと、うっとりし
ながら読んだものです。

次が『デブの国ノッポの国』。小二で転校し
て新しい環境になじめなかった自分は、二年生
の夏休みはひたすら本を読んで過〜しました。

ら、四〇になったら…」「やめてや、一〇年後
でも想像つかんわい」「このまんまでおられた
らええのに…」

先述の先生は南高生の時に読んだ『がんば
っていきまっしょい』の悦子に憧れ、自分に
何度も重ねたという。そして映画版『がんば
っていきまっしょい』で悦子を演じた田中麗
奈さんが今でも素晴らしい女優として活躍さ
れているのを励みとされているようだ。田中
麗奈も私もその先生も同い年である。あの日
からちょうど二十年の月日が流れてしまった。
それでも、私たちは一冊の物語を通して「こ
のまんまでおられ」るのである。だから、今
日も記憶の向こうから「がんばっていきまっ
しょい」のかけ声と、映像とページのにおい
が私を叱咤し続けている。

本のもつ素晴らしさ

数学科 金子昇大



今回、本について話をする機会をいただいた
ので、私なりに感じている、本の魅力について
語っていきたいと思います。私自身、幼い頃か
ら体を動かすことが好きで、遊びといえれば外
体を動かすことがほとんどでした。そのためか、
本を読む習慣はありませんでした。中高生の時
は、朝読書の時間が私の読書のすべてで、それ
以外に本と触れ合う時間はほぼ皆無でした。大
学生になってから、教員になりたいという目標
がより明確になり、そのためには色んな本を読
まなくてはならないと感じるようになり、それ

その時に出会ったこの本。デブの国の人が食べ
ているものが、おいしそうでおいしそうで…。
チョコレートって飲めるのね、とこの本で知り
ました。異なる価値観、戦争、かなり風刺の効
いた物語で、高校生にも読んでほしい作品です。
お次は、『点子ちゃんアントン』。子ども二
人が手を取り合って知恵を働かせて、悪い大人
を撃退する、胸のすくような話です。その中に
出てくる、ゆでたじゃがいも。シンブルに塩で
ゆでただけなのですが、これもまたおいしそ
うで…。アントンは家が貧しく、病弱な母親のた
めに自分で料理します。子どもには辛い事情が
このじゃがいもには隠れているのですが、それ
もうまく解決でき、みんながハッピーになるの
がこの物語です。

ここまで外国の作品を取り上げてきたので、
最後に日本の『しろばんば』を紹介します。主
人公の男の子は、血の繋がらないおばあさん(複
雑な人間模様です)と二人暮らし。かなり甘や
かされており、朝、ご飯ができるまで寝てい
よと「おめざ」をもらい、それを寝床の中で食
べます。大抵は黒砂糖の飴玉。甘やかされてい
るので歯磨きもしません。その結果、虫歯だら
けになるのですが、私はこの「おめざ」に非常
に憧れました。そこで、高校生の自分はやって
みましたよ。朝ウトウトしながら、しばらく飴
をなめる。口内が荒れました。みなさん、寝起
きの飴は危険です。

世の中には様々な本がありますが、中にはこ
のように五感(ここでは食欲ですが)を刺激する
本がたくさんあります。おいしそうな場面が出
てくる本があったら、ぜひ教えてくださいね。
くしんぼう万歳！

までよりは、読書の時間は増えていきました。
このように、決して読書家とは呼べない私でも、
本のもつ魅力を感じています。今回はその魅力
を伝えたいと思います。

魅力の一つに、「心と頭を豊かにすること」
があると考えます。行ったこともない場所につ
いて想像したり、空想の世界をイメージしたり、
知らなかったことを蓄えたりと、本は読者を色々
な世界や時代に連れて行ってくれます。この想
像・創造力を感じる場面に、本の実写化やアニ
メ化があります。本を先に読んでいて、その本
が映画やアニメ、ドラマになった時、「この役
者はイメージと違う。」や「この声は、キャラ
に合っている。」と思ったことはないでしょう
か。これは、本を読みながら、自分だけの世界
観を創りあげているに他なりません。これこそ
が「心や頭を豊かにしている」のだと考えます。
ただ紙に印刷されただけの文字から、書かれて
ある情報とは比べものにならない程のスケール
の世界を創ることが出来ます。

しかし、これだけでは物足りないとも感じて
います。せっかく自分だけの世界を創り、その
本の持つ素晴らしさに触れたのであれば、ぜひ
それを発信して行って欲しいと思います。その
本を読み、どう感じたか、どのような情景を思
い浮かべたか、それを形にしていって欲しいの
です。夏休みの宿題の定番である、読書感想文
や読書感想画は、まさにこれに当てはまるでし
ょう。本から得たものを、自分の力で形にし、
周りに発信していく。かっこよく言えば、読書
はインプットする作業であり、アウトプットが
必要であるということです。毎回毎回、本を読
んで感想文を書いたり、絵を描いたりするのは

わが青春の「がんばっていきまっしょい」

地歴・公民科 佐伯直紀

先日、校種の違う先生方の集まりで高校時
代の話題になった。私の卒業した高校のラン
ニングのかけ声は「がんばっていきまっしょ
い」を学校名と一緒に叫ぶというもので、知
らない人が聞いたらびっくりする。私は少し
いたずら心で紹介すると、聞いていたある先
生の目が輝いた。

「あつ、私の青春そのものだ」

小説『がんばっていきまっしょい』は敷村
良子さんが一九九五年に発表した作品である。
坊っちゃん文学賞を受賞し映画化・ドラマ化
されて話題となった。主人公・悦子は四国の
田舎の片隅の、学校集会で生徒会長が突然「が
んばっていきまっしょい」などと叫ぶ珍奇な
高校に入学し、周りに流されて良いのか、自
己主張しても構わないのか、それさえも分か
らず、戸惑いがちに生きる女の子である。そ
んな彼女がボート部に出会う。そこには女子
部員はおらず、ボート競技に出場するために
は五人のメンバーを揃えなければならぬ。
悦子が学年を走り回った結果、賑やかで、で
も、個性を口にするに罪悪を感じるよう
な女子たちが集まるのだ。最初の新人戦で大
敗を喫して、心を入れ替え練習に励む悦子た
ち。「やりたいことがない」と普通に思ってい
た彼女たちが「ボートしかない」という部活
動生に変わっていく。しかし、高校生活は三
年間しかない。最後の県総体前の合宿で、主
人公たちはつぶやく。「二〇歳になったら、み
んなどうなつとるんじやろう」「三〇になつた

大変なので、家族や友達に薦めてみたり、Twitter
でつぶやいてみたりしても良いと思います。さ
らには、その本についての感想を誰かと共有す
ることができれば、なお良いのではないでしょ
うか。最近の世の中は、スマートフォン普及
に伴い、情報発信や情報収集が容易になりまし
た。しかし、これらの情報は一方通行であり、
発信者と受信者が話を深めることはできていま
せん。そんな世の中において、一冊の本が人と
人をつなぐ架け橋になればと思います。

後半は、読書から話がずれてしまいましたが、
「本の持つ力は絶大である」という想いが少し
でも伝わっていれば幸いです。まずは、本を読
むことから始め、そこから広がる自分だけの世
界と現実の世界を楽しんでいってください。

推理小説を読むということ

理科 松岡敏男



あれは小学三年だったか、四年だったか、い
つときかは記憶があいまいだが、タイトルは
今でもしっかり思い出すことができる。『二十
面相の呪い』だった。私が姉に連れられて、は
じめて町立図書館に行ったときに借りた本であ
る。それがきっかけとなり、私は江戸川乱歩の
少年探偵シリーズにすっかりハマってしまった。
一気にその一冊を読み終えると、次からは一人
で図書館に向き、続けて同シリーズを片っ端
から借りて読んだ。名探偵、明智小五郎と小林
少年の活躍に夢中になった。謎が解明され、だ
れが怪人二十面相だったかが明らかになる瞬間
は爽快だった。図書館にあるシリーズはすぐに

全部読み終えてしまい、寂しい気持ちでいたのもつかの間、しばらくするとシリーズ新刊本が出た。真新しいその本を手にとって、大喜びしたこともはつきり覚えている。

中学に上がるころには、角川映画の影響で金田一耕助シリーズがブームになっていた。『犬神家の一族』や『悪魔の手毬唄』など、横溝正史が書いた原作を、こんどは自分で文庫本を買って読むようになった。家には同シリーズの黒い背表紙の本がずらりと並んだ。『八つ墓村』では、主人公の出生の謎にまつわる深い因縁に、当時中学生のまだ純真だった心がときめいたのをよく覚えている。

私にとって推理小説こそが読書人生の入り口だった。推理小説は、読み始めると必ず最後まで読ませてくれる。最後にはクライマックスが用意されている。謎が次第に解明され、いよいよ真相が明らかになるにつれて、ページをめくる手がどんどん速くなる。そして、すべての謎が解き明かされて、最後のページをめくり終わったとき、「読み終わった!」という満足感でいっぱいになる。「本を読むのは楽しいな」と思いつつ、次の本に手が伸びる。こうして、誰にも強制されることなく、ごく自然な形で読書習慣が身に付けられた私は幸運だったのかもしれない。

高校生、大学生になると歴史小説の方に興味が移っていった。『龍馬がゆく』や『三国志』のような長い作品にも手を出すようになった。ここでも、しっかり本を読む下地ができていたおかげで、最後まで読み切ることができた。教員になってから、出張が何かで遠くに行くとき、列車の中で読もうと駅のホームで本を買

った。それは東野圭吾の『鳥人計画』だった。再び推理小説にのめり込んだ。ブックオフに行っては東野圭吾や綾辻行人などの小説を買っていった。なかでも東野作品の『ある閉ざされた雪の山荘で』は秀逸だと思う。設定がたいへん興味深いのと、そしてなんといつても最後の結末が私は大好きである。

推理小説にはひとつだけ注意点がある。読み始めたらずまらないうちである。若いころは気がつくともう朝だった。なんていうことがあっても平気だった。でもこの歳になると、さすがに徹夜はきつい。最近では、まとまった休みのときなどでないと、推理小説には手を出さないようにしている。逆に言うと、推理小説が休日の楽しみの一つになっている。今年の正月休みは、横溝正史の『女王蜂』と松本清張の『砂の器』を読んだ。

物語の世界

保健体育科 長尾 郁



私は小学生のころから本が好きでした。映画やテレビとは違って登場人物がどんな人なのか、容姿はどんな人なのかからならず、自分が文章を読んで想像することから始まるからです。主人公はきつとこんな人なんだろうとか、ヒロインの人はきつとこんな人なんだろうかと想像すると、物語を読み進めるのが楽しくて仕方がないです。もちろん車やバイクの雑誌、週刊誌も読んだりしますが、私は物語が好きなのでここでは物語についてお話ししたいと思います。私が好きなジャンルはフィクションの物語です。なぜかという、この世では起こり得ない

多様化する読書

英語科 池田 誠

ことが起こってしまうからです。最近読んだ本の中で何度も読み返した本は、七月隆文さんの『ぼくは明日、昨日の君とデートする』という物語です。内容は皆さんに読んでもらいたいでざっくりとお話ししたいと思います。この物語は、ある男女が恋をするのですが、二人の間では時間の流れが逆で男の子が年を取っていくと女の子は年が若くなっていきます。つまり、この二人が付き合うことができる時間は限られていて、いつかは必ず別れが来てしまいます。さらに、男の子の方は大切な時間や思い出が増えていくのに対して、女の子の方は楽しかった思い出などが一日ごとに消えていきます。そして、最後にはお互いが好きなのに別れの瞬間が来てしまうという切ない物語です。この物語を読み進めていくうちに自分が主人公の立場ならどうするだろうか、受け入れられるのだろうかなど自分と重ねて考えながら読んでしまいます。起こるはずのないことではありますが、そんなことを考えながら本を読むと、自然とこの本に魅かれていきます。

読書という言葉を見て、みなさんは何を思い浮かべますか。かつては紙媒体の書物を用いて活字を読むことこそが読書であったと思います。しかし、現代社会において読書とは

そこから少し離れた場所にシフトしていています。

電子書籍という言葉聞いたことがあるでしょうか。これは本を電子化し、さまざまな電子端末で読むことができるようにしたものです。さまざまな方法があると思いますが、私はAmazonのKindle Paperwhiteという端末を使用しています。通常の液晶画面は目に対する負担が大きいです。これは電子ペーパーディスプレイを搭載しています。そのため、電力が必要なのは表示させるときだけ。画面を変えない限りは電力消費がないという、読書には非常に親和性の高いディスプレイなのです。

さらにAmazonはKindle Unlimitedというサービスを行っています。これは月額九八〇円で対象書籍が読み放題になるサービス。

〇〇放題というサービスはどんどん拡張しており、音楽、そして書籍までもがその対象となりつつあります。何が言いたいかというと、かつては娯楽の台頭であった上記のメディアがどんどん使い回しの立ち位置へと変化してきているということです。現在は動画コンテンツが人気であることから分かるように、敷居の低いメディア（良い悪いという意味ではなく）に人が流れているような気がします。

活字から情報をインプットして自分で思考する作業は、音楽を聞いたり動画を見たりする行為よりも脳への負担は大きいはずですが、しかし、それが言語的な処理能力や想像力の伸長につながります。読解力は本当の意味での頭の良さです。知識は調べれば済みますが、読解力は替えが効きません。これから

の時代、AIが多くの人間の仕事を奪うと言われています。人間がAIに勝てる可能性があるのは読解力なのではないでしょうか。情報力では絶対に勝てないと思います。

本校には一〇分間朝読の時間があります。これをきつかけとして、ぜひとも読書という行為を人生の一部に組み込んで欲しいと思います。現代社会のAI化に比例して人間が身につけなければいけないのは読解力です。みなさんがAIに取って代わられることのない唯一無二の人材になることを期待します。

歴史小説はおもしろい

商業科 平田友志

私は、小学生の頃はよく図書館に行つて本を読んできましたが、中学生、高校生、大学生、社会人と年齢が上がるにつれて、情けないことにあまり本を読まなくなりました。ただ、歴史が好きだったため、司馬遼太郎さんの本はよく読みましたので、少し紹介したいと思います。

一番有名なものは『竜馬がゆく』でしょうか。坂本竜馬は歴史上でも人気のある人物です。読んで、読んだことがある人もいるのではないかと思います。

次に『坂の上の雲』です。これは、地元愛媛県出身の秋山兄弟、そして俳人の正岡子規の物語です。二〇〇九年から二〇一一年にかけて、NHKのドラマでも放送されたので、本だけではなくテレビで見た人もいるのではないかと思います。その他にも『燃えよ剣』、これは新選組の

副長でもあった土方歳三の物語。『城塞』これは大坂の陣を小幡勘兵衛という武将を通しての物語。そして昨年映画化され、V6の岡田准一さんが石田三成役で、役所広司さんが徳川家康役で出演した『関ヶ原』など、司馬遼太郎さんの作品には読んでいておもしろいものがたくさんあります。歴史に興味や関心がある人は、ぜひ読んでみてください。

